

間伐の推進に向けた積極的な取組

森林を健全に育成し、十分にその多面的な役割を發揮させるためには、間伐と間伐材利用の促進が欠かせません。

間伐推進中央協議会が行っている「平成22年度間伐・間伐材利用コンクール」の受賞者が決定（平成22年10月29日）され、1月25日、東京都渋谷区で開催された森林整備ワークショップ2011で表彰されました。





長野市長官賞

光葉スチール株式会社
(長野市)



「暮らしに役立つ間伐材利用」部門

光葉スチール株式会社は、扉・天板等に地元長野県産カラマツ間伐材を使用したロッカーによって、平成20年度間伐・間伐材利用コンクールで



全国森林組合連合会会長賞を受賞しました。受賞後は、さまざまな形式や寸法のロッカーをカタログやウェブに掲載。販路の拡大に努めて実績を伸ばしています。また、製材・部材加工を県内の他社工場に委託するなど、地域の活性化にも寄与。茨城県産間伐材で作成した製品を茨城県内に納入するなど

の取組も行っています。受賞者の声 「スチールオフィス家具の製造メーカーが、なぜカラマツなのかとよく聞かれます。なぜなら、私共は8年程前から地方の山国にある企業メリットを何とか生かせないかと考え、選択したのがカラマツ間伐材



でした。そして、長野県産カラマツ間伐材でオリジナル製品の開発・商品化を、木工関連外注の協力で継続して行ってきました。これからは森林資源の有効活用のために、全国に向けて情報発信と販売を続けたいと思います。」

森林には生物多様性の保全、土砂災害の防止、水源のかん養、保健休養の場の提供など多くの多面的機能があり、私たちの生活と深くかかわっています。森林を健全な状態に保ち、そこから様々な恩恵を受けるためには、間伐や木材利用の推進が欠かせません。

平成22年度のコンクールでは、継続性・発展性も考慮して過去10年間の受賞者から再選定を行い、「暮らしに役立つ間伐材利用」「森林ボランティア団体等による森づくり」「林業事業体による森づくり」の3部門で10の取組が選定されました。

平成22年度 間伐・間伐材利用コンクール受賞者

「暮らしに役立つ間伐材利用」部門

住宅や公共施設の建築、土木関係、家具・内装材等における間伐材利用及び間伐材や間伐材製品の利用を通じて間伐の推進を支援する活動等の取組を対象としています。

| | |
|--------------|---|
| 長野市長官賞 | 光葉スチール株式会社(長野市) |
| 間伐推進中央協議会会長賞 | 特定非営利活動法人 樹恩ネットワーク(全国大学生生活共同組合連合会) (東京都杉並区) |
| 全国木材組合連合会会長賞 | 株式会社 イーエムシー(長野市) |
| 審査員奨励賞 | 合同会社 もくもく絵本研究所(岩手県遠野市) |

「森林ボランティア団体等による森づくり」部門

森林ボランティア団体等における間伐推進、地域活動や交流を通じた間伐の実施など、社会的効果の高い取組を対象としています。

| | |
|---------------|----------------------------------|
| 長野市長官賞 | 特定非営利活動法人 土佐の森・救援隊(高知県いの町) |
| 間伐推進中央協議会会長賞 | 特定非営利活動法人 こびすくらぶ(千葉県船橋市) |
| 全国林業改良普及協会会長賞 | みどりのまちづくりグループ 癒しの森づくりの会(愛知県春日井市) |

「林業事業体による森づくり」部門

林業事業体における間伐推進や効果的な間伐実施などの取組を対象としています。

| | |
|--------------|---------------------|
| 長野市長官賞 | 東白川村森林組合(岐阜県東白川村) |
| 間伐推進中央協議会会長賞 | 株式会社 とされいほく(高知県大豊町) |
| 全国森林組合連合会会長賞 | 豊田市(産業部森林課)(愛知県豊田市) |

審査員奨励賞

合同会社 もくもく絵本研究
(岩手県遠野市)

合同会社 もくもく絵本研究
所は、間伐材に民話を印刷
した木の絵本「おはなし木っ
こ」により、平成18年度間伐
材利用コンクールで審査
員奨励賞を受賞しました。

受賞後は合同会社を設立
し、英語やハンダ語、ポ
ルトガル語バージョンも製作す
るなど活動の範囲も広がって
います。

木の絵本の開発・販売を通
じて、木の良さを子供たちに
知ってもらおう「木育」を民話の
ふるさと遠野から発信中。



ら私達の木の絵本ができてま
した。商品化した平成18年度に
受賞し、今回も審査員奨励賞

全国木材組合連合会会長賞

株式会社 イーエムシー
(長野市)

株式会社 イーエムシーは、
主に土木資材として公共工事
で使用される多目的木製枠体
「ティークューブ」により、平
成14年度間伐・間伐材利用コ
ンクールで全国林業改良普及
協会会長賞を受賞しました。

土留工や河川の木製沈床
工、階段工などの多様な活用
実績があり、平成13年度の
270基から平成21年度には
2400基と増大。事業地で
の地元間伐材の活用にも寄与



しています。
受賞者の声
「過去10回の受賞者の中か
ら近年の取組等を評価して頂
き受賞できたことを本当に光
榮に思います。公共工事分野
(土木治山等)の中で間伐製品
の利用を始めて10年、間伐材
利用を推奨し、製品開発を
行ってきた弊社にとりまして、
本当に喜ばしいことと思いま

す。また今後
も皆様の御尽
力、ご協力を
頂きながら、
これを機によ
り一層公共工
事分野での間
伐材利用を
促進していき
たいと思いま
す。」



間伐推進中央協議会会長賞

特定非営利活動法人
樹恩ネットワーク
(全国大学生生活共同組合連合会)
(東京都杉並区)



特定非営
利活動法人
樹恩ネット
ワークは、
大学生協食
堂で使用する間伐材割箸の製
作・普及によって、平成13年
度間伐・間伐材利用コンク
ールで間伐推進中央協議会会
長賞を受賞しました。受賞後
福祉施設と連携した製造工場

も7つに増え、障害者等の雇
用の場の提供という一面も担
うほか、利用についても、平
成13年度の全国48大学生協
93店舗から、現在は65大
学協205店舗に拡大。
取組を進めるうちに「間伐
材割箸」という言葉が一般化す
るなど、身近なところでの間
伐材利用の普及に寄与してい

受賞者の声
「平成10年から
始めた国産間伐
材製樹恩割箸」
の取組は、前回
受賞時の平成13
年には、徳島の社
会福祉法人池田
博愛会セルプ箸
蔵で年間500万膳程度の製
造でした。しかし、平成22年



現在の、福島、茨城、群
馬、埼玉、東京、広
島を加えた全国7ヶ所
の知的障害者施設で
の製造にまで広がり、
1000万膳以上を供
給しています。今後も
割箸を通じて、日本
の森林・林業・山村に
ついての理解を広げていき
たいと思います。」

間伐推進中央協議会会長賞

特定非営利活動法人
こびすくらぶ
(千葉県船橋市)

特定非営利活動法人こびすくらぶは、森林所有者との受委託契約に基づく森林施業計画の樹立、施業の実施によって、平成21年度間伐・間伐材利用コンクールで林野庁長官賞を受賞しました。受託した



森林・竹林の整備を行い、間伐材はシイタケ原木や薪、防護柵などに活用しています。受賞後は各地で事例発表を行うなど、他の団体との連携も進展。市民が中心となって地域の森を整備・管理することも可能であるという好事例となっています。

受賞者の声
「会員皆で考え話し合いを



進め、手入れ不足の暗くて危険な里山を間伐し、光が差し込む森にするという取組が、全国的な森林ボランティア活

動の中で改めて評価されたことは、会員の大きな励みとなります。昨年度の受賞により、新規会員も増える状況にあります。昨年度の受賞により、新規会員も増える状況にあります。昨年度の受賞により、新規会員も増える状況にあります。昨年度の受賞により、新規会員も増える状況にあります。

林野庁
長官賞

特定非営利活動法人
土佐の森・救援隊
(高知県いの町)

特定非営利活動法人土佐の森・救援隊は、簡易作業道の作設による搬出間伐等によって、平成18年度間伐・間伐材利用コンクールで間伐推進中央協議会会長賞を受賞しました。



年間200日という活動を続け、ベテラン班長を配置して指導を行います。また、間伐材を余すところなく活用し、特に平成19年度からは木質バイオマス利用に向けた林地残材の搬出に取り組み、多くの視察を受けるなど、全国のモデルとなつてい

ます。「当NPOは、極小とはなつたが地域に残る小規模な林業や自伐林業を見直し、農山村の副産物型産業として、この小規模林業を今一度地域に再生させることを目標に活動してきました。困難な取組と認識していましたが、成果も出始め、特に木質バイオマスの

ための未利用間伐材や林地残材の収集運搬システムを地域ぐるみで構築することができ、全国にも広がり始めています。こうした取組を起動に乘せ始めたことを評価いただき感謝する次第です。」



「森林ボランティア団体等による森づくり」部門



を戴くことになり、極小規模の私達にとって、大きな大きな励みとなりました。今後も

間伐材利用促進と木の観点から木の絵本をつくり続けたいと思います。」





東白川村森林組合
(岐阜県東白川村)



「林業事業体による森づくり」部門

東白川村森林組合は、FSC森林認証による持続的な森林経営と、低コスト間伐の取組によって、平成16年度間伐・間伐材利用コンクールで林野庁長官賞を受賞しました。



現在は地域全体を6団地に区分し、団地ごとに森林組合職員、森林技術員を配置、施業プランの提案などを実践している。路網開設にも積極的に取り組み、現在の路網密度は60m/hまで増加。また、チップから柱材まで価格を取り決め、工場へ直送するシステム販売によって輸送コストの縮減を図っています。

受賞者の声

「山づくりは、こだわりの理念の継続と人と人のつながり

が最も重要です。いわゆる山づくりです。長い間には、林業意欲は大きく変化したものの、先人からの優良材生産を目指す理念は受け継がれました。これは、平等を基本として地域のまとまりを大事にする取組を行ってきた成果と考えています。そして、今回の名誉ある表彰を励みとして、更に、FSC森林認証の理念を加え、価値観の高い東濃松の連鎖の拡大に努めたいと思います。」



全国林業改良普及協会会長賞

みどりのまちづくりグループ
癒しの森づくりの会
(愛知県春日井市)



みどりのまちづくりグループ癒しの森づくりの会は、愛知県との活動協定による県有林「みろくの森」の森林整備の成果が認められ、平成20年度

間伐・間伐材利用コンクールで全国林業改良普及協会会長賞を受賞しました。搬出した間伐材を活用し、ベンチ等を作成して公園に設置しているほか、クラフトづくりなどのイベント実施や間伐体験、県内外からの要請に応える間伐支援隊の結成など、地域住民を巻き込んだ活動が広がっています。

受賞者の声

「間伐は緑を育てる深呼吸」
「間伐材は森の恵み」を合言葉に、荒廃した森(スギ、ヒノキの人工林、雑木林、竹林)の間伐を行い、その間伐材が有効に活用できることを広く知って貰うために「間伐材利活用まつり」を実施しています。そして、間伐で森が甦り、多くの人が間伐材の有難さ、

素晴らしさを知り、木や竹に一層愛着を持つて貰うよう頑張っています。また、間伐材の新しい用途開拓として、ヒノキの間伐材でナメコ、ヒラタケの生産・研究を行っています。」



全国木材組合連合会会長賞

豊田市(産業部森林課)

(愛知県豊田市)

愛知県豊田市は「豊田市水道水源保全基金」の活用による流域市町村の協定間伐の実施によって、平成15年度間伐・間伐材利用コンクールで全国森林組合連合会会長賞を受賞しました。

その後の市町村合併を機に、森づくりの条例や構想など独自の森林計画を策定し、過密になった人工林の間伐を推進。特に、豊田市独自制度の森林所有者による「森づくり会議」を設立し会議自らの境界確定や施業計画の策

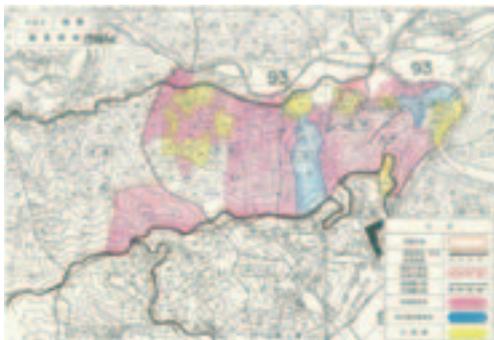


定により、現在まで78団地、1259haの団地化を達成しています。

受賞者の声
「平成15年度の受賞は、水道料金の『1トン1円』を活用

した間伐事業が評価されたものでした。その後、平成17年に上流町村と合併し広大な森林をもつ都市となり、独自の条例や構想・計画を定めて、さらに間伐事業のパワーアップを図っています。

森林ボランティアの活動も活発になりました。全国の市町村に先駆けて行っているこれらの事業が評価されたことを大変喜んでいきます。今後



邁進したいと思えます。」

間伐推進中央協議会会長賞

株式会社 とされいほく

(高知県大豊町)

株式会社とされいほくは、H型架線集材を特徴とした架線系による利用間伐の取組によって、平成19年度間伐・間伐材利用コンクールで間伐推進中央協議会会長賞を受賞しました。

利用間伐を積極的に行い、平成21年度には利用間伐が9割を超えるなど、急峻な地形にも有効な架線系集材を確立し、一定の生産性を確保する事業体として全国から視察を受けるなど、他の地域・事業体への架線技術の継承にも大

きく寄与しています。

受賞者の声
「確固たる経営理念のもと、



H型架線集材をメインとした搬出システムや人材育成など、これまでの当社の取組につきまして、高く評価していただきましたことは、日々過酷な現場作業で奮闘している現場社員にとりましても大いに励みとなりました。架線系集材は、日本の林業にとって未来永劫必要不可欠な搬出システム



ムであると確信しておりますので、なお一層の架線集材技術の研鑽に努めてまいりたいと考えています。」